



ホステッド ユニファイド コミュニケーション サービスの顧客管理

このマニュアルは、ホステッド Unified Communications Services (UCS; ユニファイド コミュニケーション サービス) システムで顧客管理者が利用できるオプションについて説明します。顧客管理者が利用できるオプションは、ホステッド UCS の具体的な実装状況によって異なります。特定のオプションの可用性について質問がある場合は、ホステッド UCS システムのプロバイダー管理者にお問い合わせください。次の項で、顧客管理者が利用できるオプションについてサブメニューごとに説明します。

- [「\[Setup Tools\]」 \(P.C-9\)](#)
- [「\[Provider Administration\]/\[Feature Templates\]」 \(P.C-10\)](#)
- [「\[Resources\]/\[Phone Inventory\]」 \(P.C-10\)](#)
- [「\[General Tools\]」 \(P.C-11\)](#)
- [「\[General Administration\]」 \(P.C-12\)](#)
- [「\[Location Administration\]」 \(P.C-17\)](#)

概要

ここでは、次の内容について説明します。

- [「ユーザ インターフェイスのガイドライン」 \(P.C-1\)](#)
- [「プロビジョニングのガイドライン」 \(P.C-3\)](#)
- [「電話機の管理」 \(P.C-4\)](#)
- [「内部番号および外線番号の管理」 \(P.C-7\)](#)
- [「サービスの管理」 \(P.C-8\)](#)
- [「パイロット番号の使用」 \(P.C-9\)](#)

ユーザ インターフェイスのガイドライン

ホステッド UCS のメニューおよび関連する管理ページでは、次の表記法を使用します。

- 他のページへのリンクは明るい青で表示されます。
- 必須フィールドは赤のアスタリスク (*) で示されます。

- エラーメッセージは赤の活字体で表示されます。
- ページへの変更は、[Add]、[Submit]、または [Modify] のいずれかのボタンをクリックするまでは保存されません。トランザクションを完了するにはこれらのボタンをクリックする必要があります。
- 一般に、トランザクションレコードは、変更を送信するたびに表示されます。レコードにはトランザクションが正常に終了したか、問題が発生したかどうかが表示されます。直前に完了したトランザクションを表示するには、[General Tools] メニューの [Transactions] オプションを使用します。
- 直前に表示したページに戻るには、ブラウザの [Back] ボタンを使用するか、ナビゲーションメニューの任意のオプションをクリックすると、特定のオプションに直接進むことができます。

[Quick Search]

USM ユーザインターフェイスには、ページごとに [Quick Search] リンクがあり、このリンクを使用すると、電話機、内線番号、ユーザアカウントなどの特定のエントリをデータベースから検索できます。[Quick Search] ページでは、さまざまな種類のエントリをこの 1 ページから検索できます。ユーザがアクセスできるエントリは、システムへのログインに使用したユーザアカウントに関連付けられているアクセス権限によって判別されます。

[Quick Search] リンクをクリックすると、ユーザがアクセスできるホステッド UCS データベースのエントリが含まれた [Quick Search] ページが表示されます。[Search For] プルダウン選択リストから、表 C-1 のオプションを選択すると、検索するエントリのタイプが特定されます。

このページの青のリンクをクリックすると、選択したエントリの管理ページが表示されます。検索を絞り込むには、[Search By] プルダウン選択リストから次のオプションのいずれかを選択します。

- [Pattern ends with] : 検索するエントリの最後の数文字を入力します。
- [Pattern starts with] : 検索するエントリの最初の数文字を入力します。
- [Pattern includes] : 検索するエントリに含まれる任意のストリングを入力します。

1 ページ内の表示エントリ数を指定するには、[Max Results] プルダウン選択リストから数を選択します。

表 C-1 検索タイプ

検索タイプ	説明
ロケーション検索	
[Location]	ディビジョンまたはカスタマー レベル内で、名前によってロケーションを検索します。
[Location with Site Code]	サイト コードを入力して特定のロケーションを検索します。
[Location of User]	ユーザのアカウント名を入力してロケーションを検索します。
[Location of Phone]	電話機の Mac アドレスを入力してロケーションを検索します。
内線番号の検索	
[Extension]	数値 ID によって内線番号を検索します。
[Extension associated with DDI]	登録されている外部回線を入力して内線番号を検索します。
[Extension used by User]	関連付けられているユーザ アカウントを入力して内線番号を検索します。
[Extension used by Phone]	電話機の MAC アドレスを入力して電話機でプロビジョニングされる内線番号を検索します。

表 C-1 検索タイプ (続き)

検索タイプ	説明
Mac 検索	
[Phone with Mac]	MAC アドレスを入力して電話機を検索します。
[Phone with Extension]	関連付けられている内線番号を入力して電話機を検索します。
[Phone with DDI]	電話機が登録されている外部回線を入力して電話機を検索します。
[Phone with User]	関連付けられているユーザアカウント名を入力して電話機を検索します。
ユーザの検索	
[Username]	ユーザアカウント名を入力してユーザアカウントを検索します。
[Surname]	ユーザアカウントに関連付けられている姓を入力してユーザアカウントを検索します。
[Firstname]	ユーザアカウントに関連付けられている名を入力してユーザアカウントを検索します。
[User with Extension]	ユーザアカウントに関連付けられている内線番号を入力してユーザアカウントを検索します。

プロビジョニングのガイドライン

次に、ホステッド UCS システムをプロビジョニングするために必要な手順の概要を示します。多くの手順は、バルク データ ローダを使用して行えます ([Bulk Load] (P.C-11) を参照してください)。

1. (サービス プロバイダー) カスタマー アカウントを作成し、ホステッド UCS の電話機インベントリに電話機を追加します。
2. (カスタマー管理者) ディビジョン (使用する場合)、ロケーション、テナントをカスタマー用に作成します。
3. (カスタマー管理者) 機能グループを作成します。
4. (カスタマー管理者) 電話機をロケーションに移します。
5. (ロケーション管理者) ロケーション内にユーザ アカウントを作成します。
6. (ロケーション管理者) 電話機を登録し、電話機を機能グループに割り当て、電話機をユーザ アカウントに関連付けます。
7. (電話機のユーザ) 電話機にログインし、[Self Care] メニューまたは電話機の LCD ディスプレイを使用してプリファレンスを設定します。

ホステッド UCS は、ロケーションを追加すると、ただちに PSTN に接続します。これによってインストール後のカットオーバー前にサイト検証が実施される事態が回避されます。このため、ロケーションを展開し、ロケーション内すべての IP 電話の動作を確認し、すべての DDI、ハント グループその他を割り当てる方が良い場合があります。すべてが正しく動作することが確認できたら、[Manage Telephony] ページの [Connect] ボタンを使用してテレフォニー サービスを PSTN に接続します ([Telephony] (P.C-18) を参照してください)。PSTN との接続に失敗した場合は (ポーティング番号の不正などの理由で)、[Disconnect] をクリックして、問題を解決してから再試行してください。

電話機の管理

ここでは、ホステッド UCS システムで電話機を管理する方法の概要について説明します。内容は次のとおりです。

- 「電話機の管理の概要」(P.C-4)
- 「電話機の手動による追加」(P.C-4)
- 「電話機の削除」(P.C-5)
- 「自動プロビジョニング」(P.C-5)

電話機の管理の概要

次に、ユーザが利用できる新規の電話機を作成するタスクについて概要を示します。

1. 電話機を（ホステッド UCS システムに）追加します。

通常、この作業は Mac アドレス、電話機タイプ、対応するボタン テンプレートをバルク ロードして行います。ただし、電話機はプロバイダー管理レベルで追加することもできます。

2. ロケーションに電話機を移動させます。

この手順は、電話機を特定のロケーションに移動させることで、カスタマー管理レベルで実行されます。これにより、電話機とサブネットが関連付けられ、このサブネットに IP アドレスが与えられます。この手順が完了すると、この電話機が「未登録」状態として USM インターフェイスに表示されます。ただし、電話機は Unified CM に登録され、内部番号へのコールや緊急時のコールに使用できます。この状態の電話機から緊急番号にコールすると、使用したダイヤル番号が緊急番号としてロケーションに割り当てられます。

3. 電話機を登録します（登録すると、コールの送受信ができます）。

この手順は、[Location Administration] レベルで、USM データベースに未登録の電話機のリストから電話機を選択して行います。選択する電話機の [Phone Registration] ページで機能グループを選択し、DDI 回線番号を割り当てます。すると、この電話機が [Registered] 状態として USM に表示されます。

4. 電話機とユーザ アカウントを関連付けます（関連付けると、このユーザ アカウントが企業ディレクトリにリストされます）。

この手順は、当該ロケーションの [User Management] ページのロケーション レベルで実行します。

5. モビリティ プロファイルを指定して電話機にログインします（ログインすると、電話機にユーザのモビリティ プロファイルが反映されます）。[Phone Management] オプション使用の詳細については、『*Customizing Your IP Phone*』を参照してください。

電話機の手動による追加

電話機はサービス プロバイダー管理者だけが追加でき、プロバイダー レベルで自動的に追加されます。つまり、電話機は、プロバイダーの倉庫に物理的に存在すると想定されます。この処理は通常、バルク ロード プロセスで行います。電話機がホステッド UCS システムに追加されると、MAC アドレスがデータベースに追加され、その後、リソース管理ツールがこれを追跡します。

電話機がカスタマー ロケーション内の物理ネットワークに接続できるようにする前に、ホステッド UCS システム内の該当するロケーションに移動させる必要があります。

電話機をロケーションに移動させると、ホステッド UCS システムがこの電話機に自動的に IP アドレスを割り当て、ホステッド UCS システム データベース内の電話機の MAC アドレスと DHCP サービスにこれをリンクします。

電話機がホステッド UCS システム内のロケーションに移動すると、この電話機はネットワークに物理的に接続することでプロビジョニングできます。電話機を正しいロケーション内の該当する VLAN に接続すると、電話機はホステッド UCS システムによって自動的にプロビジョニングされます。電話機をプロビジョニングすると、電話機は IP アドレスおよびデフォルトの設定ファイルを取得します。電話機は動作可能になりますが、緊急コール以外のコールをかけたり応答したりはできません。ユーザは電話機のメニュー画面にアクセスしたりデフォルト設定を確認したりできます。

ホステッド UCS システム内のロケーションに電話機を移動させていないと、ネットワークに接続した場合に IP アドレスが割り当てられません。同様に、誤った VLAN に接続しようとした場合も、IP アドレスは取得されません。

電話機を登録すると、Class of Service (CoS; サービス クラス) と 1 つ以上の電話番号が電話機に割り当てられます。登録では、ホステッド UCS システムで電話機をリブートする必要があります。これにより、新たに更新された設定ファイルが電話機に送信されます。設定ファイルで電話機に割り当てられる機能および設定が CoS で定義されます。

電話機の関連付けにより、ユーザ アカウントが電話機にリンクされます。これでユーザ アカウントと電話番号が関連付けられます。1 台の電話機には 1 つのユーザ アカウントだけを関連付けることができます。関連付けの前に、新規 CoS とユーザ アカウントのプリファレンスを使用して電話機を登録する必要があります。ユーザが電話機にログインする必要はありません。

電話機の CoS で「電話機のエクステンション モビリティ」が許可されていて、ユーザ アカウントにモビリティ プロファイルが割り当てられている場合は、ユーザはその電話機にログインすることができ、ユーザのモビリティ プロファイルが電話機に反映されます。

電話機の削除

システムから電話機を完全に削除するプロセスでは、電話機をプロビジョニングしたときに行ったそれぞれの手順を逆の順序で実行する必要があります。次に例を示します。

1. ログアウトするか、ユーザ アカウントと電話機の関連付けを解除します。
2. 電話機の登録を解除します。
3. 電話機をロケーションからプロバイダーに移動させます (逆プロビジョニング)。
4. 電話機を電話機のインベントリから削除します。

自動プロビジョニング

ホステッド UCS システムでは、電話機のロケーションへの移動、プロビジョニング、登録のプロセスを自動化できます。電話機はあらかじめ電話機インベントリに追加しておく必要があります。また、プリファレンスはカスタマーに設定しておく必要があります。さらに、ロケーションは、自動プロビジョニングを許可するように設定されている必要があります。ロケーションは、機能グループや番号範囲のデフォルトといった適切なビジネス ルールを定義するように設定しておく必要もあります。

電話機をロケーションのネットワークに接続すると、ホステッド UCS システムは電話機と接続する当該 IP サブネットを自動検出します。ホステッド UCS システムで、電話機の MAC アドレスが MAC アドレスの既知のプールにあることが確認されると、ホステッド UCS システム内の適切なロケーション (IP サブネット) に電話機を自動的に割り当てます。次に、ホステッド UCS システムは DHCP サーバが IP アドレスを発行するように促します。これで、電話機は自体の設定ファイルを取得できます。電話機がプロビジョニングされると、ユーザは電話機のサービス ボタンを使用して自動登録を確認できます。

ホステッド UCS システムはデフォルトの機能グループを適用し、内部番号プールのなかで最も下位の番号 (適切な場合は関連する DDI も) を選択して電話機を登録します。その結果、承認された電話機は、適切なロケーション内の任意のオフィスに接続でき、電話機は自動的にプロビジョニングされ、電話番号が登録されます。これでこの電話機を使用して電話をかけたり受けたりできるようになります。

自動プロビジョニングは、展開のリソースやエラーのリスクを削減するために大規模なロールアウトを行うカスタマー管理者が使用できます。カスタマー管理者は、バルク ロードも同様の目的で使用できます。

自動プロビジョニングは、グローバル、地域、またはローカル レベルで有効化または無効化できます。デフォルトの番号プールとサービス クラスを定義できます。自動プロビジョニングは、カスタマー レベルとロケーション レベルの両方で有効にする必要があります。いずれの場合でも、自動プロビジョニングは、有効化レベルにあるグローバル レベルのセットに対して有効化または無効化されます。

自動プロビジョニングには、4 種類のカスタマー設定があります。この設定は、カスタマー作成時にプロバイダー管理者が設定する必要があります。

自動プロビジョニングには、図 C-1 に示すように、5 種類のロケーション設定があります。

図 C-1 自動プロビジョニングのロケーションのプリファレンス

■ General Tools	AutoFeatureLocation	Feature Group for Phone based registration this location
■ General Administration	AutoLastResortFeatureLocation	Feature Group for Last Resort Phones at this location
■ Users	AutoMoveLocation	Allow Auto Move of Phone to this location
■ Customers	AutoRegister	Automate the move to and registration of phones at a location
■ Divisions	AutoRegisterLowestLocation	Lowest allowed extension number for Phone based Auto registration this location
■ Tenants		
■ Locations		

199632

この設定を表示するには、[Location Management] ページの [Preferences] をクリックします（「ロケーション」(P.C-14) を参照してください）。ロケーション設定はカスタマー設定を上書きしますが、自動プロビジョニングを実行するには、カスタマーとロケーションの両方の設定を適切に設定する必要があります。たとえば、[AutoMoveCustomer] の設定を真に設定したにもかかわらず [AutoMoveLocation] の設定を偽にすると、そのロケーションで自動プロビジョニングは許可されません。

次に、自動プロビジョニングのプロセスの概要を示します。

1. IP 電話が USM インベントリに追加され、[Reseller] または [Channel] が割り当てられます（オプションで [Customer] と [Division] のいずれかまたは両方のレベルが割り当てられることもあります）。
2. 電話機に、ロケーションの親として、該当する [Reseller]、[Customer]、または [Division] が割り当てられた場合、電話機の自動プロビジョニングが有効になります。電話機に [Location] がすでに割り当てられている場合は、この電話機は USM によってすでにプロビジョニングされています。電話機がまだ [Provider] インベントリにあるか、ステータスが割り当てられていない場合は、電話機の自動プロビジョニングは有効になりません。
3. ロケーションおよびカスタマーのプリファレンスの設定値を真に設定する必要があり、デフォルト設定を入力する必要があります。
4. IP 電話はロケーションのボイス VLAN スイッチ ポートに接続すると、「DHCP Discover/DHCP Request」メッセージを、ホステッド UCS のボイス DHCP サーバに送信します。このサーバは、ボイス VLAN に設定されたボイス IP ヘルパー アドレスで識別されるサーバです。
5. ボイス DHCP サーバは、「DHCP Request」メッセージに次のように応答します。
 - 直前に登録された（有効な）電話機が IP アドレスおよび関連付けられている DHCP オプションを取得しました。
 - 未登録/有効および有効でない電話機が検出および処理されました。
 - DHCP サーバは DHCP 要求を転送するエッジルータの IP アドレスを検出しました。
 - DHCP サーバは、USM サーバ（電話機の MAC アドレスおよびエッジルータの IP アドレスの提供元）に問い合わせます。

- USM は、USM にロードされた有効なエッジルータ/サブネットの IP アドレスのリストを参照することで、電話機のロケーションを識別します。このエッジルータの IP アドレスは、特定のサブネットで一意の必要があります。これは、電話機の自動プロビジョニングが有効で、自動プロビジョニングがロケーションで有効化されている場合に、複数のサブネットを持つロケーションの要求に応えるためです。
 - USM は、電話機を電話機のインベントリの必要な場所に移し、電話機に該当するサブネットの IP アドレスを割り当てます。また、該当する DHCP 確認応答を提供するように DHCP サーバを設定します。
 - また、USM は、ロケーションに関連付けられた (CCM) IPPBX の未登録デバイスとして、IP 電話をプロビジョニングします。電話機の自動プロビジョニングが有効化されていない場合、または、自動プロビジョニングがロケーションで有効化されていない場合は、USM は DHCP サーバを設定せず、電話機は有効な DHCP 確認応答を受信しません。
6. 自動プロビジョニングが成功すると、IP 電話はローカル サブネットの有効な IP アドレスを受信し、DHCP オプションで該当する Unified CM TFTP サーバのアドレスを受け取ってから、該当する CCM IPPBX 加入者サーバに登録します。電話機は、電話機マスクで未登録と表示され、1 番目の電話回線に内部専用の内線番号が表示されます。
 7. デフォルトの機能グループが [AutoFeatureLocation] プリファレンスで設定され、デフォルトの電話番号プールが [AutoRegisterLowestLocation] プリファレンスに設定された場合、電話機もそれぞれのデフォルト設定で自動的に登録されます。これで登録済みの電話機で電話をかけることができます。
 8. [Phone of Last Resort] 機能が USM から提供されます。この設定が有効化されると、サブネットに最初に接続された電話機に [AutoLastResortFeatureLocation] のデフォルト番号が割り当てられます。[Phone of Last Resort] 機能は特定のオーガニゼーションに対してだけ適用されます。
 9. USM は、事前に決定された [Pickup Group] に登録済みの電話機を自動的に割り当てることもできます。[XML-AutoPickupGroupName] 設定が有効になっている場合、デフォルトのピックアップグループに登録済みの電話機が自動的に追加されます。

自動プロビジョニングのプロセスでは、他のトランザクションのように、標準的なトランザクション画面は表示されません。これは、自動プロビジョニングがバックグラウンドで動作し、新規の有効な電話機がロケーションに接続された場合にだけ引き起こされるためです。ただし、USM は、自動プロビジョニングのトランザクションを、[General Tools] メニューから利用できるトランザクションログにキャプチャします。

内部番号および外線番号の管理

外線（または DDI）番号は、必ずしもすべてのビジネス電話機に割り当てられるわけではない、一意の E.164 番号です。他社からは外線（DDI）番号にだけ電話をかけることができます。社外から内部番号に電話をかけることはできません。内部番号はすべての電話機に割り当てられます。この番号を使用すると、企業内の社員は、ロケーション内およびロケーション間で内部コールができます。外線番号を電話機に登録する前に、内部番号に関連付ける必要があります。これは、すべての電話機が内部番号を持つ必要があるためです。

次に、電話番号を管理するプロセスの概要を示します。

1. E.164 番号の範囲を追加します。
2. ロケーションの追加時に内部番号を作成します。
3. E.164 番号をロケーションに移します。
4. E.164 番号の範囲と内部番号の範囲を関連付けます。
5. 電話機に 1 つ以上の電話番号を登録します。

E.164 番号の範囲は、サービスプロバイダー管理者だけが追加でき、番号は自動的にプロバイダーレベルで追加されます。つまり、番号は、プロバイダーによって規定の権限で割り当てられていると想定されます。番号の範囲がホステッド UCS システムに追加されると、番号はホステッド UCS システムのデータベースに追加され、その後、システム管理ツールで追跡されます。

内部番号はロケーションが作成されると自動的に作成されます。一部のロケーション設定プロセスでは、内部回線の数に指定する必要があるため、ホステッド UCS システムが設定された数の内部番号を自動的に作成します。内部番号は、ロケーションの設定を変更することで追加できます。内部番号は、[Dial Plan] 番号構成セクションで作成した定義を基準として作成されます。これによってサイトコードおよび内線番号の桁数が定義されます。

外線番号は、カスタマーロケーション内の物理ネットワークにある電話機で使用できるようにする前に、ホステッド UCS システム内の該当するロケーションに移動させる必要があります。ホステッド UCS システムには、番号の割り当て場所に関するレコードが保持されます。

外線番号の範囲をロケーションに移し終わると、内部番号の範囲に関連付けることができるようになります。この手順はロケーションレベルで実行します。外線番号の範囲を適切なロケーションに移していないと、内部番号の範囲に関連付けることができません。

電話機を登録すると、常に内部番号が与えられます。電話機の CoS または機能グループで外線番号または DDI 番号が許可されている場合は、外線番号のコールを受けることもできます。外線番号がそのロケーションの内部番号と関連付けられていない場合は、電話機に外線番号または DDI 番号を関連付けることはできません。

サービスの管理

サービスの管理は、次の主なタスクで構成されています。

1. プロバイダーレベルでサービスを作成する ([Provider Management])。
2. カスタマーロケーションにサービスを割り当てる ([General Administration])。
3. サービスを作成し、機能グループに割り当てる ([General Administration])。
4. サービスをユーザに割り当てる ([Location Administration])。
5. プロファイルのサービスを管理する。

プロバイダーが作成されると、サービスがプロバイダーレベルで作成されます。一部のプロバイダー設定プロセスでは、サービス数を定義する必要があり、ホステッド UCS システムが設定された数のサービスを自動的に作成します。[Provider Management] メニュー内のサービスカウンタを変更するとサービスを追加できます。

カスタマーロケーション内のユーザアカウントへのサービス割り当てを可能にする前に、ホステッド UCS システム内の該当するロケーションにサービスを移動させる必要があります。このためには、カスタマー、ディビジョン（使用する場合）、ロケーションといった各レベルでサービスカウンタを増やす必要があります。

サービスカウンタを各レベルで増分する詳細については、<\$xref> を参照してください。

ホステッド UCS システムには、各レベルでサービスカウンタを通じて割り当てられるサービスの割り当て場所に関するレコードが保持されます。予約されているサービスカウンタを変更すると、任意の 1 レベルで追加のサービスを注文することができます。サービスカウンタを変更すると課金記録の作成が設定でき、これによってサービスプロバイダーは、カスタマーがサービスを再注文したときに、カスタマーを変更できます。

機能グループは、ユーザアカウントのサービスを実装するメカニズムを提供します。機能グループを作成するときは、その機能グループ内のユーザアカウントに認可するサービスを定義します。この方法以外では、ユーザアカウントのサービスを認可できません。

ユーザアカウントを作成するときは、機能グループをユーザアカウントに割り当てます。

カスタマー管理者は、ユーザ アカウントの機能グループを変更でき、機能グループ内の基本サービスも変更できます。

ユーザ アカウントが機能グループに割り当てられると、その機能グループ内のサービスがユーザ アカウントのプロファイルに表示されます。たとえば、ユーザ モビリティ サービスを割り当てた場合、[Mobility Profile] オプションがその [Manage User] ページに表示されます。

[Manage User] ページの [User Profile] を変更してユーザ アカウントにサービスを追加します。サービスを追加すると、そのユーザ アカウントのサービスを設定できるようになります。モビリティを再び例に使用します。サービスがユーザ アカウントに追加されると、[Mobility Profile Configuration] リンクが [Manage User] ページに表示されます。

ユーザは [Self Care] ページで [Manage Profile] オプションを使用して自身のサービスを管理できます。ユーザは [Self Care] で管理するための特定のサービス設定変数（すべての変数ではありません）が利用できます。ロケーション管理者は、[Manage User] ページを使用してサービス設定のバランスを管理できます。

ユーザ アカウントにサービスを追加できない場合は、次について確認します。

- ユーザ アカウントに適切な機能グループが割り当てられているか。
- 当該ユーザ アカウントに割り当てることができる十分なサービスがロケーションにあるか。

ユーザ アカウントに適切な機能グループがない場合、機能グループを変更しなければならなくなります。ロケーションに十分なサービス リソースがない場合、さらに多くのリソースを親企業のリソースから再注文しなければならなくなります。

パイロット番号の使用

パイロット番号は、IP Unity システム内にカスタマーを作成するときに必要なプライマリ ID です。ホステッド UCS システムは、カスタマーごとにパイロット番号が一意であることを確認します。パイロット番号はネットワーク内のサービスの一意の ID ですが、ユーザがボイスメール システムにコールして自身のアカウント（回線番号）に関するメッセージを取得するための ID でもあります。パイロット番号は、ボイスメールのリソース ページ内で作成されますが、標準の E.164 番号管理プロセスに従います。ホステッド UCS 内部番号スキーム（14 桁：CPID/RID/サイトコード/内線番号）により、同一のサイトコード（999）と内線番号が複数のカスタマーから選択された場合でも、確実にパイロット番号の一意性が保持されます。

[Setup Tools]



(注)

このメニューで利用できる具体的なオプションは、ユーザのホステッド UCS の実装状況によって異なる場合があります。

ここでは、[Setup Tools] メニューの [Bulk Loads Samples] オプションについて説明します。

[Bulk Load Samples]

[Bulk Load] オプションで使用される、電話機や他のリソースの自動プロビジョニングに関するサンプル データを表示するには、[Setup Tools] メニューから [Samples] オプションを選択します。



(注) 詳細については、『Getting Started with Cisco Hosted Unified Communication Services Release 7.1(a)』の第 3 章を参照してください。

[Provider Administration]/[Feature Templates]



(注) [Provider] メニューで利用できる具体的なオプションは、ユーザのホステッド UCS の実装状況によって異なる場合があります。

ここでは、[Provider] メニューの [Feature Templates] オプションについて説明します。このオプションにより、さまざまなグループ、電話機、ロケーションで利用できる機能の管理に使用されるテンプレートを設定できます。

機能グループは、ユーザ アカウントのサービスを実装するメカニズムを提供します。機能グループを作成するときは、機能グループが割り当てられるユーザ アカウントに認可するサービスを定義します。

機能グループのテンプレートは、新規機能グループの作成時にデフォルトで有効化される機能を提供します。これにより、複数のロケーションで機能グループの整合性を維持しやすくなります。ユーザは、ロケーションでの特定の機能を有効化または無効化するために機能グループを変更することができます。

機能グループを作成するには、次の手順を実行します。

手順

- ステップ 1 [Provider Administration] メニューの [Feature Templates] をクリックします。
- ステップ 2 機能グループ テンプレートを作成するには、[Add] をクリックします。
- ステップ 3 機能グループ テンプレートに含めたり除外したりする各機能を有効化または無効化します。
- ステップ 4 [Modify] をクリックします。

[Resources]/[Phone Inventory]



(注) [Resources] メニューで利用できる具体的なオプションは、ユーザのホステッド UCS の実装状況によって異なる場合があります。

ここでは、[Resources] メニューの [Phone Inventory] オプションについて説明します。電話機はプロバイダ管理者によってインベントリに追加され、カスタマーに割り当てられます。ユーザはカスタマー管理者として、ディビジョン、ロケーション、ユーザに電話機を割り当てることができます。ホステッド UCS システムは、インベントリを追跡し、機能管理を各電話機に提供します。

[Phone Inventory] オプションを使用すると、電話機に関する情報の表示、ロケーションへの電話機の割り当て、ロケーション間での電話機の移動ができます。

電話機のインベントリを表示したり、ロケーション間で電話機を移動させたりするには、次の手順を実行します。

手順

- ステップ 1** [Resources] メニューから、[Phone Inventory] を選択します。
システムにある電話機のリストが電話機のロケーションおよびステータスとともに [Phone Inventory] ページに表示されます。電話機を検索するには、[Search by] プルダウン選択リストから次のオプションのいずれかを選択します。
- [MAC starts with]
 - [MAC ends with]
 - [Search by phone location]
 - [Extension Number Ends with]
 - [Extension Number Starts with]
 - [Full Internal Number]
- 知っている最大数の文字列を表示フィールドに入力してから [Search] をクリックします。検索ストリングでは、大文字と小文字が **区別されません**。
- ステップ 2** MAC アドレスの列に表示された青のリンクをクリックして、特定の電話機に関する情報を表示するか、別のロケーションに電話機を移動させます。
- ステップ 3** [Next] をクリックします。
- ステップ 4** プルダウン選択リストから電話機の移動先のロケーションを選択します。
- ステップ 5** [Next] をクリックします。
- ステップ 6** [Move Phone] をクリックします。
トランザクション レコードが表示されます。電話機は指定したロケーションに移動しています。

[General Tools]



(注) [General Tools] メニューで利用できる具体的なオプションは、ユーザのホステッド UCS の実装状況によって異なる場合があります。

ここでは、[General Tools] メニューの次のオプションについて説明します。

- 「[Bulk Load]」 (P.C-11)
- 「[Transactions]」 (P.C-12)

[Bulk Load]

[Bulk Load Tools] オプションを使用して、ホステッド UCS システムにデータをインポートするためのバルク データ ローダを使用します。バルク データ ローダは、ホステッド UCS システムに情報を自動的にロードできる、厳密なフォーマットに従った Excel のスプレッドシートです。

ホステッド UCS プラットフォームには、次のバルク ローダが用意されています。

- **ダイヤル プラン モデル ローダ** : USM の設定および、Cisco PGW と Cisco Unified Communications (Unified CM) のダイヤル プランが含まれます。

- 設定ローダ：プロバイダー、ネットワーク、リセラーの設定



(注)

詳細については、『Getting Started with Cisco Hosted Unified Communication Services Release 7.1(a)』ガイドを参照してください。

[Transactions]

[Transactions] オプションを使用すると、管理上の変更、ユーザのログイン試行、パスワードの変更といった最近完了したトランザクションのステータスが表示されます。[Transactions] オプションを選択すると、[Manage Transaction] ページが画面に表示されます。

トランザクションを検索するには、プルダウン選択リストから該当するオプションを選択して検索条件を指定し、[Search] をクリックします。

- 時間の範囲を指定するには、次のオプションを使用します。
 - [Any Time]
 - [Within Hour]
 - [Within 24 Hours]
- 検索に使用する条件のタイプを次のオプションから選択します。
 - [Action type]
 - [Cancelled transactions]
 - [All transactions]

[General Administration]



(注)

[General Administration] メニューで利用できる具体的なオプションは、ユーザのホステッド UCS の実装状況によって異なる場合があります。

ここでは、[General Administration] メニューの次のオプションについて説明します。

- 「[Users](#)」 (P.C-12)
- 「[\[Resellers\]](#)」 (P.C-13)
- 「[\[Buildings\]](#)」 (P.C-13)
- 「[\[Customers\]](#)」 (P.C-13)
- 「[\[Divisions\]](#)」 (P.C-13)
- 「[ロケーション](#)」 (P.C-14)
- 「[\[Feature Groups\]](#)」 (P.C-16)

Users

ここでは、ロケーション全体のユーザを管理する方法について説明します。ユーザアカウントは、[Location Administration] メニューの [Users] オプションを使用してロケーション内に追加されます。ユーザアカウントの作成や管理の詳細については、付録 A 「ロケーション管理」を参照してください。

ロケーション内でユーザの権限を変更するには、「ユーザ」(P.C-21) を参照してください。

[General Administration] メニューの [Users] オプションを使用すると、ロケーション全体のユーザに関する情報が表示されます。

[Resellers]

『Getting Started with Cisco Hosted Unified Communication Services Release 7.1(a)』ガイドの第3章にある [General Administration] オプションに関する項を参照してください。

[Buildings]

『Getting Started with Cisco Hosted Unified Communication Services Release 7.1(a)』ガイドの第3章にある [General Administration] オプションに関する項を参照してください。

[Customers]

『Getting Started with Cisco Hosted Unified Communication Services Release 7.1(a)』ガイドの第3章にある [General Administration] オプションに関する項を参照してください。

[Divisions]

[General Administration] メニューの [Divisions] オプションは、既存のディビジョンを管理したり、新規ディビジョンを追加したりするときに使用します。ディビジョンは、多数のロケーションをグループ化するために使用します。こうすると、膨大な数のロケーションがある場合でも管理が簡素化されます。各カスタマーは、ロケーションに追加する、少なくとも1つのディビジョンを持つ必要があります。アドレスと連絡先の詳細以外、ディビジョンを追加するための特定の前提条件の情報はありません。

ディビジョンを管理するには、次の手順を実行します。

手順

-
- ステップ 1** [General Administration] メニューから、[Division] を選択します。ホステッド UCS システムのディビジョンがリストされた [Division Management] ページが表示されます。このページを使用すると、特定のディビジョンの管理や追加のために、データベースからディビジョンを検索できます。



(注) [Division Management] ページがすぐに表示されない場合は、表示されるまで各ページでリンクをクリックします。

- ステップ 2** 既存のディビジョンを管理するには、[Name] 列に表示される青のリンクをクリックします。
- ステップ 3** ディビジョンを追加するには、[Add] をクリックします。
- ステップ 4** 必要なすべてのフィールドについて設定します。
- ステップ 5** [Increase/Decrease Reservation] フィールドの値を設定して、現在のディビジョンのタイプごとに割り当てる電話機の数を特定します。

ディビジョンで利用できる電話機の数 [Available From Parent] 列にリストされています。この電話機がプロバイダー管理者からカスタマーに割り当てられます。ユーザはカスタマー管理者として、現在のディビジョンに割り当てるタイプごとに電話機の数を増やしたり減らしたりできます。

ステップ 6 [Increase/Decrease Reservation] フィールドの値を設定して、現在のディビジョンのタイプごとに割り当てるサービスの数を特定します。

ディビジョンで利用できるサービス数は [Available From Parent] 列にリストされています。このサービスがプロバイダー管理者からカスタマーに割り当てられます。ユーザはカスタマー管理者として、現在のディビジョンに割り当てるタイプごとにサービスの数を増やしたり減らしたりできます。

ステップ 7 プルダウン選択リストから [GUI branding] オプションを選択します。

ステップ 8 [Modify] をクリックします。

ディビジョンがデータベースに追加されます。

ロケーション

新規ロケーションを追加するときは、最初に、次のタスクが完了しているかサービス プロバイダーに確認する必要があります。

- 新規ロケーションの建物内にケーブルが配線済みで、それぞれのオフィスが接続されている。
- 新規ロケーションの Cisco ISR または 3600 回線で電力供給されるスイッチがオンサイトで設置済みであり、サービス プロバイダーのネットワークに接続している。
- IP サブネットアドレス（またはプールアドレス）が割り当て済みで、エッジデバイスが IP サブネット用に設定済みである。
- E.164 電話番号が割り当て済みである。
- ホステッド UCS システムによって電話機がプロビジョニング済みで、新規ロケーションに割り当て済みであり、新規ロケーションで物理的に利用できる状態にある。

ロケーションを追加する前に、サービス プロバイダーから次の情報を入手します。

- ロケーションのハードウェア グループ（例：QT-P1-PGW1-C1-CP）
- ロケーションの内部サイト コード（例：7101）
- ロケーションの PSTN エリア コード（例：4）
- プライマリ ロケーション番号（メイン番号）（例：86644000）
- 緊急番号（緊急サービスのコールバック用）（例：86644001）
- このロケーションのユーザに割り当てる、E.164 電話番号範囲の開始と終了の番号（例：86644000 ~ 86644999）
- 電話機の MAC アドレス（例：12.34.56.78.AB.90）

次に、新規ロケーション追加時のタスクの概要を示します。

1. ロケーションの詳細、サービスの範囲、インフラストラクチャの設定を追加します。ホステッド UCS システムが新規ロケーション用に Cisco Unified Communications Manager、ゲートキーパ、トランジットスイッチ、および PSTN ゲートウェイを自動的に設定し、ホステッド UCS データベースに新規ロケーションが追加されます。
2. サービスや機能を含む新規ユーザの詳細を、サイト管理者を含むホステッド UCS システムに追加します。ホステッド UCS システムが中央データベース内にユーザを作成し、新規ロケーションにリンクします。

3. 電話機を登録します。これでロケーションの電話機から新規オフィスのロケーションに接続すると、ホステッド UCS システムに認識されます。ホステッド UCS システムは Cisco Unified CM および IP 管理システムを新規電話機に設定し、両者をそのロケーションおよび IP サブネットにリンクします。

電話機を登録すると、IP アドレスや電話機自体の設定ファイル（電話番号）を取得できるようになり、完全にブートすれば、認可された電話機として動作します。

4. 各電話機をユーザに関連付けます。これでユーザが自身の電話機とリンクされ、ユーザは電話機を個人用にカスタマイズできます。ホステッド UCS システムが中央データベース内でユーザを電話機にリンクします。ユーザと電話機の関連付けが解除されるまでは、電話機はユーザの電話機として動作し続けます。ユーザは電話機の設定を個人用にカスタマイズできます。ユーザがログインすると、電話機は [Personal Directory] などユーザの設定またはサービスにアクセスできます。

ロケーションの追加

ロケーションを追加するときは、次のことを考慮します。

- ロケーション管理者は新規ロケーションを追加できません。ディビジョン管理者か、より上位の担当者（カスタマー管理者など）だけがロケーションを追加する権限を持ちます。
- ロケーションは [Location Management] ページから追加する必要があります。
- ロケーションを追加する前に、最初に親カスタマー（および使用する場合はディビジョンも）を追加する必要があります。
- ロケーションを追加してから、関連付けられた電話機とユーザを追加します。

新規ロケーションを追加するには、次の手順を実行します。

手順

-
- ステップ 1** [Location Administration] メニューから、[Location] を選択します。
ホステッド UCS システムのロケーションがリストされた [Location Management] ページが表示されます。このページを使用すると、データベースでのロケーション検索、特定のロケーションの管理、または、ロケーションの追加ができます。
 - ステップ 2** 既存のロケーションを管理するには、[Name] 列に表示される青のリンクをクリックします。
 - ステップ 3** ロケーションを追加するには、[Add] をクリックします。
 - ステップ 4** 現在のロケーションに必要な詳細を入力します。
必須のフィールドは、赤のアスタリスクで示されます。
 - ステップ 5** ドロップダウンメニューから [Hardware Group] を選択します。
[Hardware Group] は非常に重要で、PBX、トランジットスイッチといったハードウェアデバイスのセットを定義します。[Hardware Group] を適切に選択することにより、新規ロケーションに割り当てるハードウェアリソースのセットを制御します。この情報はサービスプロバイダーから入手します。
 - ステップ 6** [Next] をクリックします。
 - ステップ 7** [Site Code] プルダウン選択リストからロケーションのサイトコードを選択します。
サービスプロバイダーがプルダウン選択リストのエントリを設定します。
 - ステップ 8** ロケーションのローカルエリアコード（このエリアにダイヤルする際のプレフィクス）を [Area Code] プルダウン選択リストから選択します。
サービスプロバイダーがプルダウン選択リストのエントリを設定します。
 - ステップ 9** 内線番号の長さおよび外部回線のプレフィクスを設定します。
サービスプロバイダーが利用できるオプションを設定します。

- ステップ 10** IP サブネットを選択します。
ロケーションの作成前に、サービス プロバイダーがサブネットを設定します。
- ステップ 11** [Default branding of User Interface] プルダウン選択リストからロケーションのブランディングを選択します。
- ステップ 12** [Add] をクリックします。
新規ロケーションの設定が自動的に開始します。

ロケーション リソースの管理

付録 B 「ホステッド ユニファイド コミュニケーション サービスのディビジョン管理」の「[ロケーション リソースの管理](#)」(P.B-11) を参照してください。

[Feature Groups]

機能グループは、ユーザ サービスを管理する主要な手段です。機能グループはカスタマー管理者によってカスタマイズされます。機能グループには次の 2 つのタイプがあります。

- ユーザ アカウント用の機能グループ
- 電話機用の機能グループ

ユーザベースの機能グループは、すべてのユーザのモビリティ プロファイルに割り当てられる、機能、サービス、使用権を定義し、さらにこのモビリティ プロファイルが機能グループに割り当てられます。電話機ベースの機能グループは、グループ内の各電話機に割り当てられる、機能、サービスおよび使用権を定義します。

機能グループは、Class of Service (CoS; サービス クラス) を含めた一連のサービスを定義し、このサービスがユーザまたは電話機に割り当てられます。機能グループについて理解し、使用方法を精査することで、IP テレフォニーのユーザ体験を大きく向上させることができます。機能グループの定義が上手くいかないと、ユーザや電話機へのサービス定義も適切にできなくなります。

機能グループは、ホステッド UCS システムの初期設定中に定義します。確立後に、新規サービスや新規サービス クラスが追加された場合など、ユーザの業務で変更が発生したときは、機能グループを新しく追加する必要があります。

機能グループは、数多くのユーザ アカウントや電話機に追加されます。ある 1 つの機能グループを変更しても、すべてのユーザ アカウントや電話機に影響するわけではない場合があります。

機能グループはカスタマー レベルで作成され、カスタマーのロケーション間で共通です。各カスタマーまたはテナントは自身の機能グループを作成する必要があります。機能グループを作成または削除するには、カスタマー管理者かさらに上位の権限が必要です。

機能グループを管理するには、次の手順を実行します。

手順

- ステップ 1** [Location Administration] メニューから、[Feature Groups] を選択します。
ホステッド UCS システムの機能グループがリストされた [Feature Group Management] ページが表示されます。このページを使用すると、データベースで機能グループを検索したり、特定の機能グループを管理したり、機能グループを追加したりできます。
- ステップ 2** 既存の機能グループを管理するには、[Name] 列に表示される青のリンクをクリックします。
- ステップ 3** 機能グループを追加するには、[Add] をクリックします。

ステップ 4 カスタマーの機能グループの機能を有効化または無効化するには、関連付けられているチェックボックスをオンまたはオフにします。

ステップ 5 適切な機能セットを選択したら、[Modify] をクリックします。



(注) 機能グループは変更できますが、慎重に行ってください。これは、変更によってその機能グループを使用するすべての電話機とユーザの機能グループの設定が変更され、他のロケーションに影響をおよぼす場合があるためです。

[Location Administration]



(注) [Location Administration] メニューで利用できるオプションは、ユーザのホステッド UCS の実装状況によって異なる場合があります。

ここでは、[Location Administration] メニューの次のオプションについて説明します。

- [\[Switchboards\]](#) (P.C-17)
- [\[Telephony\]](#) (P.C-18)
- [\[Hunt Groups\]](#) (P.C-18)
- [「番号グループ」](#) (P.C-20)
- [\[Pickup Groups\]](#) (P.C-20)
- [「ユーザ」](#) (P.C-21)
- [\[Phone Inventory\]](#) (P.C-21)
- [\[Phone Registration\]](#) (P.C-22)
- [\[Phone Management\]](#) (P.C-22)
- [\[Analogue Line Mgt.\]](#) (P.C-22)
- [\[MoH Track Mgt\] オプション](#) (P.C-23)
- [\[Internal Numbers\]](#) (P.C-24)
- [「外線番号」](#) (P.C-25)

[Switchboards]

[Location Administration] メニューの [Switchboards] オプションは、既存のスイッチボードを管理したり、新規スイッチボードを作成したりするために使用します。

スイッチボードを管理するには、次の手順を実行します。

手順

-
- ステップ 1** [Location Administration] メニューから、[Switchboards] を選択します。
現在のロケーションのスイッチボードがリストされた [SwitchBoard Management] ページが表示されます。このページを使用すると、データベースでのスイッチボードの検索、特定のスイッチボードの管理、またはスイッチボードの追加ができます。
 - ステップ 2** 既存のスイッチボードを管理するには、[Name] 列に表示される青のリンクをクリックします。
 - ステップ 3** スイッチボードを追加するには、[Add] をクリックします。
 - ステップ 4** 現在のロケーションのスイッチボードに必要な情報を入力します。
 - ステップ 5** スイッチボードの設定に必要なオプションをプルダウン選択リストから選択します。
 - ステップ 6** [Add] をクリックします。
-

[Telephony]

[Location Administration] メニューの [Telephony] オプションを使用すると、現在のロケーションの電話機を管理できます。

ロケーションのテレフォニー サービスを管理するには、次の手順を実行します。

手順

-
- ステップ 1** [Location Administration] メニューの [Telephony] オプションをクリックします。
 - ステップ 2** [Telephony Management] ページが画面に表示されます。
 - ステップ 3** テレフォニー サービスを管理するには、[Telephony] をクリックします。
 - ステップ 4** テレフォニー サービスに接続するには、[Connect] をクリックします。
 - ステップ 5** コールパーク サービスを追加するには、[Add] をクリックします。
 - ステップ 6** [Submit] をクリックします。
-

[Hunt Groups]

ハント グループとは複数の電話機のセットで、グループに対してルールを割り当てることができるため、より効率的にコールに応答できます。設定されるルールによって異なりますが、グループ内の任意の電話機に電話がかかると、すべての電話機で同時に呼び出し音が鳴るか、各電話機が交代で鳴り、コールはいずれかの電話機が応答するまでグループ内で次々と転送されます。

ハント グループはカスタマー管理者が作成しますが、[Hunt Groups] オプションをユーザが使用して、既存のハント グループに回線を追加したり、グループから削除したりできます。



- (注)** 「番号グループ」(P.C-20) に説明されているように、ハント グループに回線を追加する場合は、その前にまず番号グループを作成する必要があります。単一の番号グループを複数のハント グループで使用したり、複数の回線グループを単一のハント グループで使用したりできます。
-

ここでは、ハント グループをロケーションに追加する方法について説明します。ハント グループへの回線の追加など、ハント グループの管理については、付録 A「ロケーション管理」を参照してください。ハント グループを作成するには、次の手順を実行します。

手順

-
- ステップ 1** [Location Administration] メニューから、[Hunt Groups] を選択します。
- ステップ 2** ハント グループを検索するには、[Search by] プルダウン選択リストから [Hunt group name] または説明を選択し、知っている最大数の文字列を表示フィールドに入力してから [Search] をクリックします。検索ストリングは大文字と小文字が区別されます。
- ステップ 3** [Add] をクリックします。
- ステップ 4** [Add] をクリックして新規ハント グループを追加します。
- ステップ 5** ハント グループの一意の名前を入力します。
- ステップ 6** ハント グループの説明を入力します。(オプション)
- ステップ 7** [Pilot Number] プルダウン選択リストからパイロット番号を選択します。パイロット番号がコールされると、コールはハント グループに転送されます。
- ステップ 8** コールに応答がなかったときの転送先となる番号を [Call Forward Destination] フィールドに入力します。各番号グループには、コールが特定のパイロット番号にかかったときに呼び出し音が鳴る番号グループが含まれています。複数の回線グループを 1 つのハント グループに関連付けることができます。これで最初の回線グループのいずれかのメンバーもコールに回答しなかった場合、コールを 2 番目の回線グループにロールオーバーできます。[Maximum Hunt Timer] プルダウン選択リストで指定された制限時間以内に、回線に関連付けられているいずれのグループ メンバーもコールに回答しない場合、コールは [Call Forward Destination] フィールドに指定された番号に転送されます。
- ステップ 9** [Maximum Hunt Timer] プルダウン選択リストからの呼び出し音の最長時間を選択します。それぞれの回線グループには、次の回線または回線グループにコールをロールオーバーする方法、およびロールオーバーするまでの呼び出し音の長さに関するルールがあります。[Maximum Hunt Timer] は、各回線グループのすべての回線でコールの呼び出し音を鳴らすことができる合計の最長時間を指定します。したがって、これを十分に長い値に設定するか、[Maximum Hunt Timer] が時間切れになる前に各回線がコールを受けられるように、回線グループの [RNA Reversion Timeout] に、十分に短い値を設定するかをいずれかを行う必要があります。このタイマーに設定可能な最長時間は 180 秒 (3 分) です。
- ステップ 10** [Add Hunt Group] ページの下部の [Add] をクリックします。
-

複数の回線グループで 1 つのハントグループを使用する

ハントグループでは、順番に利用できる番号グループの順序付きリストを使用できます。
既存のハントグループに番号グループを追加するには、次の手順を実行します。

手順

-
- ステップ 1** [Hunt Group Management] ページで、[Number] グループに追加するハントグループの名前を選択します。
- ステップ 2** [Select Number Group] をクリックします。
[Select Line Group] ページが表示されます。
- ステップ 3** ハントグループに追加する [Number] グループをプルダウン選択リストから選択します。
-
-  **(注)** 同じ番号グループを複数のハントグループに追加できます。
-
- ステップ 4** [Number] グループを使用する順序を選択します。
- ステップ 5** [Add] をクリックします。
-

番号グループ

番号グループとは、ハントグループに割り当てられたパイロット番号に着信したコールの処理方法を判別するために、1 つ以上のハントグループで使用できる複数の電話機のセットです。

番号グループの作成手順については、付録 A 「ロケーション管理」を参照してください。



(注) ロケーション管理者レベルの番号グループは、回線グループと呼ばれています。

[Pickup Groups]

ピックアップグループは、グループ内の任意の電話機のユーザがソフトキーボタンを押して着信コールに回答できるようにする電話番号のセットです。ピックアップグループはカスタマー管理者が作成しますが、ロケーション管理者がピックアップグループに番号を追加したり、グループから番号を削除したりできます。また、ピックアップグループを関連付けたり関連付けを解除したりもできます。2 つのピックアップグループを関連付けると、このグループが関連付けられている間は単一のピックアップグループとして機能します。

グループピックアップを使用すると、ピックアップグループに属していない電話機のユーザもコールをピックアップできます。この操作はグループピックアップの内線番号を使用して行えます。

ここでは、ピックアップグループをロケーションに追加する方法について説明します。ピックアップグループへの回線の追加などのピックアップグループの管理については、付録 A 「ロケーション管理」を参照してください。

ピックアップグループを作成するには、次の手順を実行します。

手順

-
- ステップ 1** [Location Administration] メニューの [Pickup Groups] を選択します。[Pickup Group Management] ページが画面に表示されます。
ピックアップグループを検索するには、[Search by] プルダウン選択リストから [Pickup Group Name] または [Description] を選択し、知っている最大数の文字列を表示フィールドに入力してから、[Search] をクリックします。検索ストリングは大文字と小文字が区別されます。
 - ステップ 2** [Pickup Group Management] ページの [Add] をクリックします。
 - ステップ 3** ピックアップグループの一意の名前を入力します。
 - ステップ 4** ピックアップグループの説明を入力します（オプション）。
 - ステップ 5** ピックアップグループには含まれていないがコールをピックアップする必要がある番号を選択します。
 - ステップ 6** [Add] をクリックします。
-

ユーザ

ここでは、ロケーション内のユーザの権限を変更する方法について説明します。ユーザアカウントの作成および変更については、付録 A 「ロケーション管理」を参照してください。

ユーザの権限を変更するには、次の手順を実行します。

手順

-
- ステップ 1** [Location Administration] メニューの [User] をクリックします。
 - ステップ 2** [User Management] ページで、管理するユーザアカウントの [Username] 列に表示される青のリンクをクリックします。
 - ステップ 3** [Permissions] をクリックします。
 - ステップ 4** 各回線にリストされている操作に対し、選択したユーザアカウントが所有する必要がある権限のタイプを、有効化または無効化するチェックボックスをオンにします。
 - ステップ 5** [Modify] をクリックします。
-

[Phone Inventory]

現在のロケーションの電話機のインベントリは、[Location Administration] メニューの [Phone Inventory] オプションを使用して管理します。

電話機のインベントリを管理するには、次の手順を実行します。

手順

-
- ステップ 1** [General Administration] メニューから、[Phone Inventory] を選択します。
現在のロケーションの電話機のインベントリがリストされた [Phone Inventory] ページが表示されます。このページを使用すると、電話機をデータベースで検索したり、特定の電話機を管理したりできます。
 - ステップ 2** 電話機を管理するには、[Name] 列に表示される青のリンクをクリックします。

- ステップ 3** ボイスメール アカウントを追加するには、[Add] をクリックします。
- ステップ 4** このページは選択した電話機についての情報が表示されます。

[Phone Registration]

現在のロケーションに電話機を登録するには、[Location Administration] メニューの [Phone Registration] オプションを使用します。

電話機がロケーションに割り当てられると、電話機には IP アドレスが割り当てられ、未登録状態として USM データベースに表示されます。ただし、電話機は Unified CM に登録され、内部番号へのコールや緊急時のコールに使用できます。この状態の電話機から緊急番号にコールすると、使用したダイヤル番号が緊急番号としてロケーションに割り当てられます。

電話機が登録されると、機能グループと外線 (DDI) 番号が割り当てられます。登録後、電話機はモバイルプロフィールへのログインに使用でき、また、外線番号にコールできるようになります。

電話機を登録するには、次の手順を実行します。

手順

- ステップ 1** [Location Administration] メニューから、[Phone Registration] を選択します。現在のロケーションにある未登録の電話機がリストされた [Phone Registration] ページが表示されます。このページを使用して、未登録の電話機をデータベースで検索したり、特定の電話機を登録したりできます。また、電話機の登録解除や電話機のステータスの表示もできます。
- ステップ 2** 電話機を登録するには、[Name] 列に表示される青のリンクをクリックします。電話機の登録の詳細については、付録 A 「ロケーション管理」を参照してください。

[Phone Management]

ロケーション内の電話機を管理するには、[Location Administration] メニューの [Phone Management] オプションを使用します。ロケーション内の電話機の管理の詳細については、付録 A 「ロケーション管理」を参照してください。

[Analogue Line Mgt.]

アナログ回線 (ファクス機など) を登録するには、[Location Administration] メニューの [Analogue Line Mgt.] オプションを使用して、電話機と回線を関連付けます。アナログ回線を登録するには、次の情報が必要です。

- アナログ ゲートウェイ アドレス (例: 12.34.56.78.AB.90)
- アナログ回線の機能グループ
- 回線に割り当てられる電話番号 (例: 86644000)

アナログ回線を割り当てるときは、次の点に注意してください。

- アナログ回線はロケーション レベルで割り当てる必要があります。
- アナログ ゲートウェイは当該ロケーションでプロビジョニングする必要があります。

アナログ回線を登録するには、次の手順を実行します。

手順

-
- ステップ 1** [Location Administration] メニューから、[Analogue Line Mgt.] を選択します。
現在のロケーションのアナログ ポートがリストされた [Analogue Port Management] ページが表示されます。このページを使用すると、データベースでのスイッチボードの検索、特定のスイッチボードの管理、またはスイッチボードの追加ができます。
- ステップ 2** 既存のアナログ ポートを管理するには、[Name] 列に表示される青のリンクをクリックします。
- ステップ 3** 表示されるページで、[Gateway name] をクリックします。
- ステップ 4** 表示されるページで、登録するポートをプルダウン選択リストから選択します。
- ステップ 5** [Next] をクリックします。
- ステップ 6** 該当する電話機の番号 (E.164、DDI、ローカルの内線番号) を入力します。
- ステップ 7** [Register] をクリックします。
-

[MoH Track Mgt] オプション

Music on Hold (MoH)トラックをホステッド UCS システムに追加するには、Unified CM の管理ページを使用します。

[Location Administration] メニューの [MoH Track Mgt] オプションを使用して MoHトラックを管理します。

MoHトラックを管理するには、次の手順を実行します。

手順

-
- ステップ 1** [Location Administration] メニューから、[MoH Track Mgt] を選択します。
現在のロケーションの MoHトラックがリストされた [MoH Track Management] ページが表示されます。このページを使用すると、データベースでの MoHトラックの検索、特定の MoHトラックの管理、または MoHトラックの追加ができます。
- ステップ 2** 既存の MoHトラックを管理するには、[Name] 列に表示される青のリンクをクリックします。
- ステップ 3** MoHトラックを追加するには、[Add] をクリックします。
- ステップ 4** 次の詳細事項を入力します。
- MoHトラック名
 - トラック ID
 - トラックの説明
 - MoHサーバ名
- ステップ 5** [Submit] をクリックします。
ホステッド UCS システムは MoHトラックをデータベースに追加します。
-

[Internal Numbers]

DDI 番号は、割り当てる前に内部番号に関連付ける必要があります。サービス プロバイダー。DDI 番号がない場合、または、すべての番号が使用済みの場合は、サービス プロバイダーに要求して追加の番号を取得してください。

範囲の関連付けにより、外線番号のセットを内部番号の範囲にまとめてリンクすることができます。すべての DDI 番号が電話機に割り当てられていることを確認するため、あるいは、内部コール用の内部番号を常にモビリティ プロファイルに用意していることを確認するために番号の関連付けが必要です。DDI 番号と範囲の関連付けは、バルク ロードで行うこともできます。

内部番号は、[Location Administration] メニューの [Internal Numbers] オプションを使用して管理します。内部番号を管理するには、次の手順を実行します。

手順

-
- ステップ 1** [Location Administration] メニューから、[Internal Numbers] を選択します。内部番号、関連付けられている PSTN 番号、関連付けられている電話機ユーザ、スイッチボードパイロット、電話機タイプがリストされている、[Manage available internal numbers] ページが表示されます。このページを使用して、内部番号をデータベースで検索したり、内部番号の範囲を管理したりできます。



(注) すでに関連付けられている番号は予約できません。

- ステップ 2** 内部番号の範囲を管理するには、[Internal Number Range Mgt.] をクリックします。
- ステップ 3** 内部番号の開始範囲を [Start Internal Number] フィールドに入力します。
- ステップ 4** [Range Size] プルダウン選択リストから内部番号の数を選択します。
- ステップ 5** 管理内容に合わせて、次のいずれかのボタンをクリックします。
- [Enable] : 選択した内部番号の範囲を有効化します。
 - [Disable] : 選択した内部番号の範囲を無効化します。
 - [Reserve] : 選択した内部番号の範囲を予約します。
 - [Unreserve] : 選択した内部番号の範囲の予約を解除します。
-

外線番号

外線番号は、[Location Administration] メニューの [External Numbers] オプションを使用して管理します。外線番号を管理するには、次の手順を実行します。

手順

-
- ステップ 1** [Location Administration] メニューから、[External Numbers] を選択します。
[Manage External Numbers Usage] ページが表示されます。[Manage External Numbers usage] ページを使用すると、ユーザのロケーションの DDI と内部番号の関連付けを確認できます。また、特定の番号の関連付けを解除することもできます。番号の関連付けを解除するには、該当する DDI 番号の横の [DisAssoc] をクリックします。このページを使用すると、データベースでの外線番号の検索、特定の番号の関連付けの解除、範囲の関連付けの解除、または、範囲の関連付けができます。
- ステップ 2** 範囲を関連付けるには、[Range Assoc.] をクリックします。
- ステップ 3** プルダウン選択リストから国コードを選択します。
- ステップ 4** プルダウン選択リストから、開始範囲、終了範囲、関連付ける外線番号を選択します。
- ステップ 5** [Submit] をクリックします。
-

